

三井住友ファイナンス&リース(株)
電子デバイス設備部長

下田 力氏

三井住友ファイナンス
&リース(株)(SMFL)
東京都千代田区は、約
30年にわたって半導体製
造装置の中古売買ならび
に設備リース事業を展開
している。

帯域化を図り、レイテン
シーを大幅に改善したH



騰や急激な不安など状況
は目まぐるしく変化し、
舵取りが一層難しい状況

では、中国向けが約半分
を占め、日本が2割弱、

の国産化率を引き上げる

がより一層重要となる

開に一層注力していく。

の設備移設や余剰設備の
撤去に伴う工場での現場
作業へのサービス対応の
さらなる拡充も図ってい
く。さらに、グループ会

東南アジア・欧米での展開強化

従来の枠を超えたソリューション

昨今の半導体市場は、
コロナ禍による在宅特需
の一巡に加え、ロシアに
よるウクライナ侵攻の長
期化などの地政学的リス
クの高まりなどを受け、
スマートフォンやパソコ
ン、民生機器などの需要
が低迷。また、幅広いア
プリケーションにおける
デバイスの在庫調整が影
響し、メモリーを筆頭に
厳しい市況が続く。一方
で、生成AI関連では既
存のDRAMに比べて高

BM (High Bandwidth
Memory) の需要が急速
に拡大。また、カーボン
ニュートラルの実現に向
けてキーデバイスとなる
パワー半導体が牽引役と
なり、2026年までに
10以上の新規200mmフ
ァブの建設が計画されて
いる。ここでは、新規装
置に加え、中古製造装置
を活用した生産能力の増
強が不可欠となる。

が続く。中古
製造装置の売
買から設備リ
ースまで幅広く手がける
SMFLは、長年培った
経験・ノウハウならびに
専門知識に裏打ちされた
総合力に定評があり、デ
バイスメーカーの経営層
などからアドバイスを求
められることも多い。電
子デバイス設備部長の下
田力氏に、半導体業界の
事業の概況、今後の展望
などについて伺った。

そのほかが韓国・台湾と
いったところだ。
22年秋ごろから、中古
装置を取り巻く市況の減
速感がより鮮明化。また、
22年10月に発表された米
国による中国に対する輸
出規制強化により、中古
製造装置でも最終需要者
における一層の用途確認
が求められている。その
ため当社も、輸出入管理の
法令遵守には細心の注意

動きもあるが、レガシー
プロセスでは中国製装置
が十分に対応できない工
程もある。他地域に比べ
て小口径の新規プロジェ
クトも多く、当社の在庫
と情報に期待した引き合
いは多い。また、中長期
的に需要が確実な国内外
における200mm/300
mmでのパワーデバイス
の増強に対応した商談も
多い。

が、売り主であるユーザ
ーの設備投資回収の極大
化を念頭に置き、引き続
き積極的な対応を行って
いる。

加しつつあるものの、新
規設備投資にブレーキが
かかっていることから全
体としては弱含みだ。
プロセスの微細化や材
料の多様化が進むなか、
部材メーカーでは研究開
発に必要な検査装置など
でオペレーティングリー
スを活用したダグケース
や、財務戦略の一環でリ
ースバックなどを活用い
ただくケースも多い。ま

た、装置メーカーにおい
ては、販売促進の手段と
してリースなどのメニュ
ーを利用いただいてい
る。今後もユーザーや装
置メーカーの声を傾
け、細かいニーズにも対
応した適切なサービスを
提案していく。

一方、当社では工場間
の設備移設や余剰設備の
撤去に伴う工場での現場
作業へのサービス対応の
さらなる拡充も図ってい
く。さらに、グループ会
社のSMFLみらいパー
トナースを通じて、工場
の屋根などに太陽光発電
設備を設置し、発電した
電力を供給するサービス
なども提供している。中
古装置の売買や設備リ
ースという従来の枠を超
え、半導体工場に対する
幅広いソリューションの
提供により、今後も顧客
をサポートしていくこと
もに、サーキュラーエコ
ノミー(循環型経済)の
実現に貢献していく。
(聞き手・清水聡記者)

